

岡山県記録資料叢書13

岡山県明治前期資料 四

(十五、十七年)

岡山県立記録資料館

## 凡 例

一 本書は、『岡山市記録資料叢書13 岡山市明治前期資料四』として、国立公文書館所蔵「府県史料」のうちの「岡山市史料」を基礎とし、同館所蔵の「公文録」、当館所蔵の「岡山市史野崎家資料」、複製資料の「岡山市布達」・「山陽新報」・「仁木家資料」等を翻刻収録した。さらに、県内外諸機関の所蔵資料や刊行物等を調査して引用採録し、適宜関係写真を掲載した。県内外の諸機関に感謝の意を表する。

二 内容は、明治十五〜十七年までの岡山市を対象としている。

三 全体の把握と利用の便のため、細目次を設け、適宜、その資料についての解説を末尾に付記した。

四 本文は可能な限り原本どおりとしたが、次の措置を講じた。

1 書式や原本の状態は、次のように表した。

ア 平出・台頭・闕字等は省略した。

イ 項目が替わってそのままで見にくい場合は、一行空けまたは改行とした。

ウ 朱書は、その部分をゴシック体で示した。

エ 虫損・破損等は□□でその状態を示し、文字が推定できる場合は右傍に（ ）で示した。

オ 原本に使用されている（ ）は「」に置き換え、（ ）内の文章等を示した。

カ 原本にある○記号や印は、適宜、○や㊦・㊧等、似た形状のものを付けた。

2 用字・用語は、次のように処理した。

ア 漢字は原則として常用漢字に置き換えた。常用漢字のないものは原本に準じた。異体字・俗字等は正字に直した。  
イ 誤字・当て字は推測して右傍（ ）に正字を記し、脱字は右傍へ（○が脱カ）と示した。

ウ 「山陽新報」の複製状態が悪くて判別しがたい文字は、□□で示した。

エ 変体仮名は現行の平仮名に直した。合字は現行の表記に直した。なお、助詞のニ・而已はポイントを落として使用した。

オ 表記の不統一はそのままとし、あえて統一はしていない。

3 読みやすくするため、次のような措置を講じた。

ア 適宜、読点（、）あるいは並列点（・）を付けた。

イ 難読語には適宜右傍（ ）に振り仮名を付けた。なお、「山陽新報」中の振り仮名は、適宜、（ ）を付けずに、使用されたそのままを右傍に付記した。また「山陽新報」には、適宜、濁点を付けた。

ウ 難読語には、適宜右傍（ ）に\*印を付し、簡潔に語釈を付けた。

エ その他、本文中の（ ）はすべて編者による注記である。

五 本文中に職業や身分、疾病・障害・犯罪に関する呼称があるが、事実に基づく科学的な研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとよりこの不当な呼称を容認するものではなく、科学的な認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者におかれてもこの立場を理解し、本書を正しく利用されることを期待する。

六 本書の総括は定兼学が行い、編集及び解説は岡長平、原文校正は定兼学・近藤萌美が担当した。

# 岡山県記録資料叢書13 岡山県明治前期資料 四 目次

口 絵  
凡 例  
細 目 次  
解 説

## 細目次

### 一 県 治

5	15年5月12日	社説 県下郡書記戸長諸君ニ告ク	4	13	15年10月4日	皇居御造営に伊部村の瓦を差出し	10
4	15年3月10日	郡長の集会は県令の去就などの説明	4	12	表1 在監人員(明治15年末の現員)		10
3	15年3月8日	邑久郡久々井村小橋村長に人心帰服	3	11	15年9月30日	二日市の監獄新築、三友寺の女監移る	9
2	15年3月7日	県令が各郡長を松の江楼で饗応	3	10	15年9月15日	岡山区天瀬協力救貧院の加入寄付状況	9
1	5年1月14日	地籍下調帳記載の各町村字小字名取調	3	9	15年9月7日	岡山区共有金分配	9
		使用資料とその略称一覧	2	8	15年9月5日	明治十五年度備荒貯蓄金予算	8
				7	15年8月31日	官地貸下料其他上納区分	8
				6	15年6月14日	寄書 郡区役所合併論	6

14	15年10月14日	浅口郡赤崎村で貧民救済の積金を発起	10	表4	師範学校、中学職員	26	
15	15年10月31日	邑久郡久々井村の分村	11	表5	医学校職員	26	
16	15年11月16日	岡山警察署に新調した唧筒の練習	11	30	16年10月11日	本月一日から七日の上道郡聯合会詳報	26
17	15年12月8日	津山八ヶ町住民が戸長改撰協議	11	31	16年12月3日	上道郡中丸持鏡	27
18	15年12月10日	久米南条郡の地価減額の請願	11	表6	備前上道郡中丸持鏡	28	
19	15年12月14日	久米南条郡の数村が地租免除願	12	32	16年12月11日	新奇の講談師・中川横太郎	27
20	15年12月15日	久米北条郡皿村、高尾村の免除願却下	12	33	17年1月1日	岡山県人口	27
21	16年1月	昨年中の裁判件数	12	34	17年1月5日	客年中県庁への願付届等件数	27
22	16年1月1日	岡山県人口	12	表7	明治16年県庁への願付届等件数	30	
23	表2	明治16・17年の岡山県人口	13	35	17年2月	十五・十六両年の戸数人口比較表	27
24	16年2月15日	戸長役場区域並びに戸長以下配置方	12	表8	明治15・16年の郡区別戸数・人口	31	
25	16年3月24日	邑久郡各村聯合会規則	14	36	17年2月26日	岡山福音救済院設立旨趣・規則	27
26	16年3月28日	岡山県監獄焼失御届	19	37	17年2月27日	岡山福音救済院規約	32
27	16年4月16日	岡山区会議員当選者	19	38	17年3月10日	北条県再置の上願を相談	34
28	16年5月5日	岡山区会、定員の件で暫時休会	20	39	17年4月2日	北条県再置の請願の議	34
29	16年6月	岡山県職員録発行	20	40	17年5月24日	岡山区各所設置便所の下与を協議	34
表3	16年6月6日	岡山県職員録	21	41	17年5月27日	岡山区便所下与協議集会の惣代	35
22			22	42	17年6月10日	後月郡内戸長ら、聯合会で砂防工協議	35

43	17年6月23日	岡山区、上房、西北条・東南条郡総称	35
44	17年8月12日	警察報告	35
	表9	明治17年1月～6月 岡山県警察報告	36
45	17年8月13日	賀陽郡、上房郡町村の分裂及び改称	35
46	17年11月20日	再興よりは再思を 北条県再置計画	37
47	17年12月27日	岡山県令高崎五六外一名参事院議官岡 山県令等に転任の件	37
48	17年12月27日	下道郡役所で砂防費等一郡聯合会	38
49	17年12月31日	二十七日宣下 高崎県令は参事院議官 に、新県令に千坂高雅	38
	<b>* 明治十七年七月大雨洪水</b>		
50	17年7月18日	堤防破壊の状況	38
51	17年7月19日	備中玉島よりの被害通信	39
52	17年7月20日	砂川の堤防破壊	40
	<b>* 明治十七年八月暴風海嘯</b>		
53	17年8月27日	暴風異聞	40
54	17年8月28日	暴風異聞統報	41
55	17年8月28日	暴風の災害	42
56	17年8月29日	風災	43
57	17年8月29日	暴風異聞	44
58	17年8月30日	損害ヶ所の報	45
59	17年9月4日	堤防修築予算	51
60	17年9月4日	郡役所あて県の被害者取調達	51
61	17年9月11日	埋葬地増加の出願	52
62	17年9月12～14日	被害状況	54
63	17年9月16日	宮内庁より罹災者へ三千元の下賜金	57
64	17年9月16日	岡山県罹災人民救助ノ件	57
65	17年9月20日	風害上京上奏の県令に下賜金	59
66	17年9月27日	児島郡被害実況取調	59
67	17年9月	児島郡和田・田井・宇野村取調帳	60
68	17年9月29日	岡山県土木費中へ臨時補助金の件	64
69	17年10月23日	暴風海嘯災害始末 岡山県	65
70	17年10月29日	宮内少書記官一行が暴風激浪の被災地 を実況視察	65
71	17年11月	郡区別暴風海嘯被害見積金員表	66
72	17年11月6日	後楽園議場で下賜布団の仕立て	67

73	17年11月	海嘯被害者賑恤金計算簿	67		
74	17年11月21日	恩賜の布団下賜	68		
		<b>* 郡村景況</b>			
75	15年1月7日	備前津高郡金川村の景況	69		
76	15年1月11日	備中庭瀬撫川両村の景況	69	2	15年～17年 県会議員一覽
77	15年1月18日	備中上房郡竹之庄郷の近況	70	表11	15年6月14日 社説 我岡山県会新任議員諸君ニ望ム
78	15年1月29日	備中賀陽郡足守村近況	71	3	15年3月31日 臨時県会二十二日より開会
79	15年3月9日	備前邑久郡鹿忍村景況	72	4	15年4月2日 臨時県会昨日閉会、通常県会本月中旬
80	15年3月26日	作州勝北郡真加部村の景況	72	5	15年4月8日 通常県会延期を内務卿に開申
81	15年3月29日	備中小田郡笠岡村の景況	73	6	15年4月12日 通常県会本月二十五日より開会
82	15年4月11日	備中倉敷近況	73	7	15年5月2日 県会流会
83	15年4月13日	備中玉島港近況	74	8	15年5月16日・18日 社説 郡区長公撰の議
84	15年6月10日	備中上房郡高梁景況	74	9	15年5月17日 岡山県会郡区長公撰建議の可決
85	16年1月13日	玉島通信	75	10	15年5月25日 岡山県会説明者で論議
86	16年1月19日	備前児島郡下村の統計	75	11	15年6月1日 社説 岡山県会ノ紛議
87	16年2月25日	備中浅口郡の近況	76	12	15年6月3日 社説 岡山県会の紛議、内務卿指令
88	16年3月8日	備中浅口郡通信	76	13	15年6月4日 岡山県会紛議の大結末
89	17年6月26日	備前上道郡近況	77	14	15年6月14日 社説 我岡山県会新任議員諸君ニ望ム

一一 県 会

使用資料とその略称一覽

1 15年～17年 県会開会一覽

表10 15年～17年 県会開会一覽

表11 15年～17年 県会議員一覽

15年3月31日 臨時県会二十二日より開会

15年4月2日 臨時県会昨日閉会、通常県会本月中旬

15年4月8日 通常県会延期を内務卿に開申

15年4月12日 通常県会本月二十五日より開会

15年5月2日 県会流会

15年5月16日・18日 社説 郡区長公撰の議

15年5月17日 岡山県会郡区長公撰建議の可決

15年5月25日 岡山県会説明者で論議

15年6月1日 社説 岡山県会ノ紛議

15年6月3日 社説 岡山県会の紛議、内務卿指令

15年6月4日 岡山県会紛議の大結末

15年6月14日 社説 我岡山県会新任議員諸君ニ望ム

32	17年4月9日	通常県会傍聴記にみる議員発言数	108
31	17年4月1日	八日より後楽園で臨時県会開催	107
30	17年3月6日	通常県会を後楽園で八日より開催	107
29	17年1月15日	教育費及び県庁舎建築修繕費増額議決	107
28	16年12月27日	後楽園の件につき臨時県会の議決	105
27	16年12月14日	臨時県会を二十一日より開催	105
26	16年5月26日	高崎県令の本年通常県会決議書	104
25	16年4月1日	県会議場における高崎県令の演説	103
24	16年3月13日	戸長公撰を建議	103
23	16年3月3日	通常県会五日より開催	103
22	15年12月2日	臨時県会議員召集問題	102
21	15年11月17日	臨時会十一月二十七日より開催	102
20	15年7月18日	臨時県会本月十五日閉場	101
19	15年7月7日	県会決議の県令不認可	101
18	15年6月30日	臨時県会七月七日より開催	101
17	15年6月27日	岡山県会閉場式	101
16	15年6月25日	社説 岡山県会結了	98
15	15年6月14日	抹茶議員	97

### 三 民 権

34	17年10月13日	二十四日より臨時県会を開催	108
33	17年4月12日	臨時県会本月十一日閉場	108
1	15年1月4日	女演説の権輿	111
2	15年1月5日	津山矢吹宅で郡長らが懇親会	111
3	15年1月6日	女演説者八田清子の品格	111
4	15年1月19日	中島衛宛小林樟雄書簡	111
5	15年1月21日	自由党本部林包明の津山来巡	112
6	15年2月3日	岡山の国会請願魁を名誉欲と評す風聞	113
7	15年2月11日	仁木永祐宛中島衛書簡	113
8	15年2月19日	賀陽郡第一親睦会広告	114
9	15年2月23日	自由党加盟者名簿	114
10	15年3月1日	阿賀郡新見村で集談会開催	114
11	15年3月10日	自由党山陽地方本部主意・盟約	115
12	15年3月11日	自由党山陽地方本部規則書	116
13	15年3月12日	賀陽郡親睦会景況 藤井龍男記	118
14	15年3月26日	浅口郡道越村で懇親会、同郡黒崎村で	



15	15年4月	自由党美作部人名簿	121	30	15年6月28日	集会条例改正による届出	133
16	15年4月11日	籠谷定雄会主の岡山懇親会警察臨監	123	31	15年7月5日	妹尾村での演説会中止	133
17	15年4月12日	岡山懇親会警察臨監統報	124	32	15年7月9日	勸善会の怪事	133
18	15年4月13日	克明社員の警察召喚	125	33	15年8月	美作自由党盟約	133
19	15年4月16日	大雲寺懇親会で警察と衝突	125	34	15年9月23日	岡山区富田町で女子演説会	136
20	15年4月20日	大雲寺懇親会事件統報	127	35	15年9月26日	仏教講談会で安達憲忠講演に中止命令	136
21	15年4月22日	自由党員らの裁判宣告書	128	36	15年9月27日	山本憲が山陽道の自由党結党届	137
22	15年4月25日	自由党員らの裁判宣告書(続き)	129	37	15年10月1日	阿賀郡新見村で郷党親睦会	137
23	15年4月28日	第三美作親睦会概略	130	38	15年10月3日	西大寺 自由改進黨新聞購読者増加	137
24	15年5月6日	福井孝治・牧驥足無罪判決広告	131	39	15年10月5日	吉野郡に青年同盟会を発起	137
25	15年5月25日	妹尾政談演説会を岡山警察署長が調査	131	40	15年11月14日	真島郡落合駅の垂水社、透成社親睦会	138
26	15年5月26日	妹尾政談演説会を巡查探偵	131	41	15年11月19日	山陽立憲政同盟約・規則書	138
27	15年5月31日	自由党美作部臨時大会議	132	42	15年11月29日	賀陽郡演説会、警官により中止	138
28	15年5月31日	中央本部臨時大会へ出席の代議人立石岐離別宴会広告	132	43	15年12月26日	犬養毅の政談演説会中止解散	139
29	15年6月14日	立憲改進黨三名を招聘のため党員忍峠稜威兄が大坂へ出発	132	44	16年2月22日	妹尾村和田豊太、公判で無罪放免	139
				45	16年4月1日	浅口郡の新聞購読会、郡長が許可取消	140
				46	16年4月18日	英田郡倉敷村に共愛会発起	140
				47	16年5月3日	亀山清太郎の官吏侮辱事件一年で宴会	140

48	16年5月4日	浅口郡里見村有志が協中会出願許可	141
49	16年6月6日	民権家と交際したとして解任された西 大寺村戸長の慰労会	141
50	16年10月24日	惟正館が岡山区に二十日開業	141
51	17年6月4日	玉島の元興鳴会員二名が入獄紀年会	142
52	17年10月29日	津山の政談演説会中止解散	142
53	17年11月16日	浅口郡黒崎村の新聞購読会に無罪申渡	142
<b>四 産業経済</b>			
使用資料とその略称一覧			
1	14年12月22日	山陽煙草会社広告	145
2	15年1月28日	ランプの芯発明、徹支社を組織し製造	145
3	15年2月23日	小田郡東三成村の素麺会社好調	145
4	15年4月	児島湾の灰貝、牡蠣類の蒔付に関する 県通達内七号の下書き	146
5	15年4月6日	宇野田三郎 治水愚見建言	147
6	15年4月21日	純粹短角種牡牛広告	151
7	15年5月9日	磨屋町黒住春次の糸綯器械改良	151
8	15年5月11日	川上郡の煙草産出額、津山の勤工場、	151
9	15年5月13日	篤好社存続決議	152
10	15年5月19日	北木島鯛網漁盛ん	152
11	15年5月21日	灰貝取揚情願書	153
12	15年6月2日	川上郡阿賀郡煙草改良費補助	154
13	15年6月15日	池田類次郎が岡山旧城内で牛乳発売	155
14	15年6月18日	玉島紡績所開業紀行	155
15	15年6月21日	真島郡池田類次郎の牧場経営盛ん	157
16	15年6月23日	川上郡下原村に私立銀行開業広告	157
17	15年6月27日	津高郡紙工村で漆製造出願	158
18	15年7月1日	児島郡大崎村より蒔付灰貝出願	158
19	15年7月6日	天瀬陶器製造所払い下げ願出	160
20	15年7月12日	第二十二国立銀行人事	160
21	15年9月6日	津高郡辛川市場で牛馬大市	161
22	15年9月12日	岡山区に共同水道会社発起	161
23	15年9月23日	三菱会社が吉岡銅山へ技師を派遣	162
24	15年10月8日	粒江村小川頼三郎が天禄酒を醸造	162
25	15年10月14日	巖井村三門谷の土を使って陶器を製造	162

26	15年10月15日	上房郡、哲多郡の石綿	162	
27	15年10月17日	阿賀郡菅生村の粟生産の景況	163	
28	15年10月20日	砂糖大会社が株主募集	163	
29	15年10月24日	岡山区に魚市場増設の出願	163	
30	15年11月16日	英田郡倉敷村の茶	163	
31	15年12月2日	岡山区の大虎湯に解散中止命令	164	
32	15年12月11日	篤好社組織機資本金拝借上申	164	
33	16年1月11日	岡山郵便局十五年中取扱為替統計	165	
	表12	明治15年為換金一覽	166	
34	16年1月27日	砂防工施行規則取設	165	
35	16年2月24日	砂防工施行規則着手順序	169	
36	16年3月24日	県勧業課が種苗類を無償下渡し	170	
37	16年4月	〔砂防工費額取調書〕	170	
	表13	〔砂防工費額取調書〕	171	
38	16年4月21日	岡山県陶器製造所払い下げ上申	173	
39	16年5月6日	高田硯の支店を岡山上之町へ開設	173	
40	16年5月11日	懲役人雇い旧勧業試験場内で畳表製造	174	
41	16年5月20日	岡山紡績所株式買取依頼	174	
	55	17年7月	岡山紡績所改革見込書	191
	54	17年6月28日	岡山市中の米価下落	190
	53	17年5月9日	魚購入年計	190
	52	17年2月26日	上道郡外田村聚鱸社十年祭の模様・鱸	189
	51	17年1月10日	十州塩田同業会概則	189
	50	16年12月12日	米商会所引き続き営業する旨広告	189
	49	16年10月21日	県下酒造家の廃業数	189
	48	16年10月3日	児島湾養貝の差許し	187
	47	16年9月8日	児島湾内養貝の差許し	187
	46	16年9月	の栽培を計画	187
	45	16年9月	灰貝蒔附ニ付海面拝借之願	185
	44	16年8月6日	砂防工概論(宇野田三郎)	184
	43	16年7月1日	十州塩田通常会決議事項について協議	176
	表15	岡山県下乙号河川表	178	
	表14	岡山県下甲号河川表	177	
	42	16年6月24日	後月郡の大工らが精励社設立	175
	41	16年7月1日	土木規則を定め七月一日より施行	176

56	17年7月3日	岡山地方常用品物価の十五・十六年比較	194
		表16 岡山地方常用品物価	195
57	17年7月3日	児島郡下村紡績所近況	195
58	17年9月	岡山郵便局貯金取扱高	195
	表17	岡山郵便局貯金取扱高(明治17年9月~11月)	196
59	17年10月22日	県下稲作農家収穫の予算	196
60	17年11月6日	岡山昨今の公債、株券等相場	197
61	17年11月9日	本県畳表の卸売り値	198
62	17年12月5日	岡山の魚市場の鯨	198
63	17年12月16日	花畑紡績所近況	198
64	17年12月16日	酒類製造量	198
	表18	三ヶ国郡区別酒類製造比較表	199
* 開墾			
65	15年3月26日	吉備開墾社の経営行き詰まり	202
66	15年4月15日	日本原移住士族に資本金貸下	203
67	15年4月30日	微力社々長西毅一辞職、改選	204
68	15年5月6日	日本原開墾、桑麦桐茶植え付け	204
69	15年5月10日	微力社廃存の論議、杉山岩三郎を追求	204
70	15年5月11日	美作一國溜池紛議につき上京	205
71	15年5月16日	微力社に参事院議官補黒田綱彦が尽力	205
72	15年5月30日	岡山上之町で興除新田開墾協議集会	205
73	15年6月9日	日本原開墾に政府より一万五千円借受	205
74	15年6月17日	大塚伊八郎、興除村検査のため出張	206
75	15年9月17日	微力社が有終社と改名	206
76	15年10月24日	邑久郡牛窓村沖青島の開墾出願	206
* 水論			
77	15年2月2日	勝南郡吉ヶ原村の大岩を開墾	206
78	15年3月30日	小田郡走出村・甲怒村と後月郡木ノ子村の用水紛争関係書状	206
79	15年5月13日	赤坂郡滝山村溜池改修決議	208
80	15年6月15日	窪屋郡羽島・二日市両村で田養水紛議	209
81	16年6月1日	御野郡玉柏村と同郡他村が用水で紛議	210
82	16年7月26日	津高郡富原村の早魃	210
83	16年8月2日	御野郡三野村三挺樋開墾を協議	210
84	16年8月2日	小田郡、後月郡の村々、腕力で水論	210

85	16年8月12日	御野郡水源の鐘掛川を明日より浚鑿	211
86	16年8月14日	都宇郡三村と庭瀬村及び邑久郡各村と 磐梨郡田原村の水論彙報	211
87	16年8月15日	早魃で地主に農地返還	212
88	16年8月16日	玉島港では早魃により水騰貴	212
89	16年8月22日	御野郡平田村、米倉村の水論及び津高 郡今保村、久米村と津島村の水論	212
90	16年8月26日	飲用水不足で都宇郡栗坂村まで寛新設	213
91	16年8月28日	窪屋郡帯高村、水分別で郡役所へ	213
92	16年8月29日	大庭郡内の早魃	214
93	16年9月2日	津高郡及び浅口郡の水論	214
94	16年9月4日	上道郡古津村水論/浅口郡水論続報	214
95	16年9月8日	御野郡・津高郡など早魃で稲枯死	215
96	16年9月9日	上道郡米田村・海吉村の水論詳報	215
97	16年9月11日	浅口郡某村、早魃のため祭客謝絶評議	215
98	16年9月22日	小田郡北部早魃につき教育妨害も	216
99	17年7月25日	東北条郡昨夏の水論の裁決	216
100	15年1月29日	児島郡藤戸より倉敷間の入江浚鑿計画	216
101	15年2月21日	川上郡吹屋村田井村間の道路修繕	217
102	15年2月25日	新見村から備後東城への險路平削計画	217
103	15年3月10日	後楽園朝日橋を出石・古京両町所有に し利益金で貧民救助	217
104	15年3月11日	東中島町新橋渡り初め式	218
105	15年3月16日	哲多郡井村・新見村間の高梁川浚鑿	219
106	15年3月27日	私費架設の橋梁等の郵便脚夫通行料請 求は不可	219
107	15年5月3日	赤坂郡正崎村砂川に新橋落成	219
108	15年5月26日	玉島で金比羅参詣用の蒸気船購入計画	219
109	15年7月13日	倉敷偕力社の小蒸気船開業広告	220
110	15年9月22日	汽衛社発起により三番に小灯明台着工	220
111	15年9月23日	津山辺の吉井川浚鑿経費獲得に奔走	220
112	15年9月23日	京橋宮繕のため日向国へ材木買入れ	220
113	15年10月	通運会社取扱の員数	221
114	15年11月15日	備前讃岐海底電信線改設、漁業等禁止	221
115	16年1月1日	汽船同盟会社、一月より船賃値下げ	221

\* 交通通信

116	16年1月10日	岡山郵便局、明治十五年中の郵便物統	222
		計……………	222
	表19	岡山郵便局の明治十五年中の郵便物発着統計……………	223
117	16年1月24日	私費で架設の橋梁等の電信配達通行料……………	222
118	16年7月20日	玉島港入港船舶通灯料……………	222
119	16年12月2日	津山へ電信局設置……………	222
120	17年3月18日	県庁より警察、監獄署へ電話機設置……………	224
121	17年4月6日	岡山電信局、栄町に落成し本日移転……………	224
122	17年11月	津山郵便局十一月の取扱郵便物……………	224
123	17年11月	三番港から飽浦への渡し舟……………	224
<b>五 教育文化</b>			
		使用資料とその略称一覧……………	226
<b>* 教育制度</b>			
1	15年1月20日	学校を仮用した集会等の取締通達……………	227
2	15年4月25日	医学校卒業生徒へ開業免許状の授与可……………	227
3	15年4月25日	本県商法学校への従学誘導……………	227
4	15年5月20日	公立学校教員の演説等禁止……………	228
5	15年6月6日	県会で岡山県商法学校の廃絶決議……………	228
6	15年6月9日	論説 県立中学校廃存ノ可否……………	228
7	15年8月5日	学務委員の政談演説禁止……………	230
8	15年11月16日	岡山教育会規則草案……………	231
9	16年2月3日	生徒の政治講談等への臨会加入禁止……………	233
10	16年2月3日	生徒の学術演説会への臨会加入禁止……………	233
11	16年2月6日	町村立中小学校校長教員職務心得……………	234
12	16年3月2日	公立私立学校助教等の心得……………	234
13	16年3月22日	県立商法学校廃止……………	235
14	16年4月17日	師範学校卒業証書及び教員免許状……………	235
15	16年5月9日	町村会会場の小学校仮用禁止……………	236
16	16年5月25日	女教員及び女生徒の服飾に関する注意……………	236
17	16年7月7日	岡山教育協会、明八日例会開催 広告……………	237
18	16年9月11日	明治十六年度区町村教育補助費……………	237
19	16年10月7日	学事共進会を学事奨励会に改称……………	238
20	16年11月6日	小学校生徒日鑑……………	238
21	17年1月15日	小学助教の資格要件……………	238
22	17年2月2日	教員俸給減など教育上の妨害に留意……………	239
23	17年4月2日	岡山学事奨励会開会式の概略……………	239

24	17年6月1日	岡山県医学校稟告 解剖者追善供養、開校式・証書授与式	240
25	17年6月7日	県医学校、旧西ノ丸へ移転	240
26	17年7月11日	大坂府下にならい本県に幼稚園設置	240
27	17年7月12日	岡山県師範学校卒業証書授与式	240
28	17年10月2日	榎本常女、師範学校女子科教師補に	242
*	<b>教育現況</b>		
29	15年1月26日	津山中学校、二種の教則	242
30	15年2月8日	丸亀町・児島郡浦田村に夜学開校	243
31	15年3月1日	都宇郡妹尾村妹尾小学盛大化	243
32	15年3月16日	小田郡黒木村小学校の進歩	243
33	15年4月13日	磐梨郡第一番学区平岩小学盛大化	244
34	15年5月18日	六郡長らを召喚し津山中学校和解評議	244
35	15年5月24日	津山中学校和解できず一時閉校の模様	245
36	15年5月27日	津山中学校に就き県令が所見を押し通す	245
37	15年10月5日	岡山区高島梅女が私立学校設置を上願	245
38	15年12月1日	小田郡新賀村小学新築願下	245
39	15年12月22日	津山中学校の廃校決定	246
40	15年3月31日	岡山区内の男女別小学生徒の数	246
41	16年2月25日	岡山区内の私塾数及び同生徒数	246
42	16年3月29日	小田郡矢掛村の子弟対象に学而社	247
43	16年4月17日	津山新職人町に有声学舎なる夜学会	247
44	16年5月31日	玉島の成章学舎は退塾多く閉塾の模様	247
45	16年6月10日	小田郡矢掛村有志が私塾・学向社設立	247
46	16年6月13日	浅口郡に暇脩学会開設、郡長加入誘導	247
47	16年9月1日	津山京町成器小学増築落成	248
48	16年9月24日	阿賀郡第廿三番学区養蒙小学開校式	248
49	16年10月	高梁・有終館、規則改正稟告	249
50	16年10月20日	師範学校に小学訓導を集め伝習起業式	249
51	16年11月11日	浅口郡暇脩学会、文武両道を研究	249
52	16年11月18日	窪屋郡養素小学開校式	250
53	17年1月15日	御野中学校、再議の未維持する決議	250
54	17年3月6日	八日開催の師範附属小学生徒の遊戯会	250
55	17年4月24日	小田郡各小学校で助教の試験	251
56	17年5月27日	勇崎村の法律研究会・葆光会	251
57	17年5月29日	上房郡川面村の暇脩学舎、塾舎新築	251

58	17年7月1日	師範中学両校教師が普通予備学校設置	251
59	17年7月5日	普通予備学校、入学者を増員	254
60	17年7月8日	閑谷養生徒募集広告	254
61	17年8月1日	閑谷養生徒募集式	256
62	17年9月30日	閑谷養生徒募集式	260
63	17年12月5日	岡山区瓦町景福寺に裁縫所を計画	260
*	出版抜粋		
64	15年1月4日	中島衛が津山新聞発行出願中	261
65	15年1月4日	作州の立石岐が活版所	261
66	15年1月4日	山陽新報の再発兌社告	261
67	15年1月12日	中洲絵入新聞発行許可	261
68	15年1月13日	官権新誌発行許可	262
69	15年1月27日	稚児新聞の中国毎日新聞改題許可	262
70	15年1月19日	杉山岩三郎にかかる岡山毎日新聞報道	263
71	15年2月4日	津山活版所を有待社と称し一日開業式	263
72	15年2月11日	永田一二、大坂立憲政党组织新聞社へ入社	263
73	15年2月11日	岡山区で中国毎日新聞発兌申請	264
74	15年2月11日	永田一二離岡稟告	264
75	15年2月22日	岡山毎日新聞社発行停止稟告	264
76	15年3月14日	岡山毎日新聞解停と津山に第一支局設置	264
77	15年4月5日	置広告	264
78	15年4月5日	学事申報発行許可	265
79	15年4月8日	中国毎日新聞発行許可	266
80	15年5月10日	上之町細謹社が細謹舎と改称	266
81	15年5月27日	学事申報発兌	266
82	15年5月29日	中国毎日新聞発行停止命令	266
83	15年6月1日	黄薇評論叢誌発行許可	267
84	15年6月3日	山陽自由新聞発行許可	267
85	15年6月22日	岡山毎日新聞、解停され再発兌	267
86	15年7月7日	克明社が新紙・中国日々新聞発行計画	268
87	15年7月13日	杉山岩三郎、岡山毎日新聞を買収	268
88	15年9月2日	岡山毎日新聞が岡山新報と改称	268
89	15年9月15日	山陽新報の発行停止解除	268
90	15年9月23日	津山の政談社より政談以呂波新聞発行	269
91	15年9月27日	当地の自由黨員が新聞発行計画との噂	269
		広告 新聞発行との山陽新報記事は虚	



107	16年4月13日	阿賀郡唐松村某、吉備日々新聞見合わ	275
106	16年4月4日	吉備日々新聞購読を小田郡長が再度の 論達	275
105	16年3月12日	不二新聞発兌広告	274
104	16年3月8日	吉備日々新聞発兌広告	274
103	16年2月27日	吉備日々新聞購読を小田郡長が論達	273
102	16年1月17日	おさな舎発兌のおさな艸誌	273
101	16年1月17日	磐梨郡報国社が二種の新聞発行出願	273
100	16年1月	絵入人情おさな草誌進達	272
99	15年12月24日	杉山岩三郎が吉備毎日新聞を発行	272
98	15年12月4日	小学岡山県三国史出版許可	272
97	15年12月	三国地図銅刻出版の願	271
96	15年11月23日	津山の政談いろは新聞発行禁止	271
95	15年11月20日	津山新聞発行許可進達	271
94	15年11月8日	岡山毎日新聞発行禁止稟告	271
93	15年10月7日	仰天珍聞発行許可	270
92	15年9月27日	山陽日報発行許可	270
		説	270
122	16年2月21日	後楽園購求に係る難波二郎三郎書簡	282
121	15年12月7日	神社寺院創立再興復旧許可	282
120	15年10月25日	社寺修繕のための境内樹木伐採の制限	281
119	15年10月24日	岡山区春日神社、県社となり祭典執行	281
118	15年10月5日	都宇郡妹尾村で日蓮宗僧侶の宗旨喧嘩	280
117	15年5月27日	正阿弥勝義、メルボルン博四等褒状	280
116	15年3月11日	岡山城入札払下げ広告	280
		* 文化宗教	
115	17年12月26日	吉備日々新聞広告 年末年首休刊廃止	279
114	17年12月14日	下道郡で雑誌続々	279
113	17年11月10日	岡山教育雑誌、昨日発兌	278
112	17年2月13日	関新吾書状(向陽社火災への見舞い)	278
		舞い)	277
111	17年2月10日	小松原英太郎書状(向陽社火災への見	277
110	17年2月7日	岡山区で商陽日報発刊を出願中	277
109	17年2月4日	向陽社火災、休刊広告	277
108	16年6月14日	吉備日々新聞向陽社が火災	276
		せ通知するも続々通送	276

140	17年3月25日	上道郡平井村妙広寺の巨松	288
139	17年3月25日	岡山区上之町で西洋料理開場の式	287
138	17年3月23日	後楽園、本日より縦覧を許す(広告)	287
137	17年3月11日	後楽園に岡山区の三軒が茶屋を新築	287
136	17年2月21日	後楽園、修繕落成し縦覧	287
135	17年2月27日	協信社、武揚会創立の広告	286
134	17年1月13日	本朝農書編纂のための古文書類提供	286
133	16年10月16日	岡山区石関町の県社岡山神社が改号式	286
132	16年7月26日	奈良茶店総代、警察より説諭	286
131	16年7月12日	岡山区蓮昌寺の宗教大演説会の様子	285
130	16年7月12日	奈良茶店	285
129	16年6月29日	邑久郡の安仁神社、来月十五日上棟式	285
128	16年6月23日	基督教演説会	284
127	16年6月15日	磐梨郡で三ヶ村にまたがる古墳発見	284
126	16年6月5日	杉山岩三郎ら発起の馬術研究会	284
125	16年5月22日	不受不施派日講師遺骨	283
124	16年5月20日	後楽園で師範追悼の日置流射術式	283
123	16年3月15日	逸見大吉彫刻、天覽御留置きに	283
157	15年9月6日	県下虎列刺病の状況	294
156	15年9月5日	虎列刺病予防のため溝渠等を掃除	294
155	15年8月1日	伝染病診断書の衛生委員会等への提出	293
154	15年6月6日	児島郡田ノ口で海水浴場開場	293
153	15年5月22日	貧困者等に対する医療救済費目・金額	292
152	15年5月4日	医師薬舗兼業の禁止	292
151	15年3月1日	伝染病理研究等のため医会設立	292
*	<b>医療</b>		
150	17年12月7日	鶴見橋の往来人	291
149	17年11月12日	戸籍帳簿への宗旨記載不要	291
148	17年8月16日	後楽園鶴見橋落成式	290
147	17年8月13日	後楽園の鶴見橋落成式予告	290
146	17年8月13日	奈良茶店の不景気	290
145	17年7月24日	千輪性海が仏教大演説会	289
144	17年7月4日	高梁耶蘇協会に暴客	289
143	17年6月22日	山岡鉄太郎が書千枚を揮毫し寄付	289
142	17年6月8日	正阿弥勝義に京都博覧会から賞牌	288
141	17年4月8日	協信社が後楽園に仮橋を架設	288

174	17年8月20日	児島郡田ノ口村の海水浴場	300
173	17年8月3日	沙美海水浴場近況	300
172	17年4月25日	中川横太郎が衛生会設置に奔走中	299
171	17年4月24日	第一回医師開業志願者試験の及第者数	299
170	17年4月21日	難波立憲種痘勸善社解社の稟告	299
169	17年3月20日	煙草の火、奥市の避病院を灰燼にす	298
168	16年10月16日	私立高梁病院開業式の景況、祝辞	296
		表20 病院の患者数	297
167	16年9月	九月の岡山県病院患者総数	296
166	16年6月14日	浅口郡沙美海水浴場の開設予定	296
165	16年4月12日	産婆開業広告	296
164	16年3月26日	大医会への小医会長出頭通達	295
163	15年10月24日	御雇医師ベルリ―私立病院設立	295
162	15年10月20日	ベルツが治療検分に県病院へ	295
161	15年10月13日	備中浅尾藩に伝わる疔癰の妙薬	295
160	15年10月8日	矢掛村に駆黴院出張所設置を上願	295
159	15年9月28日	医学校移転跡地に眼病院	294
158	15年9月7日	牛窓等五港で検疫	294

## 岡山県明治前期資料 四 解説

### 一 『岡山県明治前期資料四』の概要

『岡山県明治前期資料』は、岡山県域の確定した明治九年（一八七六）から、明治立憲体制の成立する同二十二年（一八八九）頃までの岡山県を対象に、当時の岡山県にとっての重要資料や稀少資料、新たに発掘した資料を、おおむね下表のような計画で編纂刊行することとしている。

本年度は、高崎県政の開始から七年～九年目に当たる明治十五～十七年の時期を対象とした。結果的に高崎岡山県令最後の三年間となるこの時期は、県会議決の不認可、民権運動に対抗して自ら後押しした「吉備日々新聞」の発刊など、「鬼県令」としての厳しさも各所に発揮するものの、一方で、宇野円三郎の治水建言を採り上げ、治水治山事業を行うなど、県民生活の基礎的インフラ整備に積極的に取り組む姿を見ることが出来る。これらの資料によって岡山県令高崎五六の再評価を期待したい。

『岡山県明治前期資料』の刊行計画

標題	年度	内容
岡山県記録資料叢書10 『岡山県明治前期資料一』	平成26	明治9～10年 新岡山県高崎県政の開始
岡山県記録資料叢書11 『岡山県明治前期資料二』	“ 27	明治11～12年 民会の再開と県会の設置
岡山県記録資料叢書12 『岡山県明治前期資料三』	“ 28	明治11～12年の残り と明治13～14年 高崎県政と県会の対立・民権運動の高揚
岡山県記録資料叢書13 『岡山県明治前期資料四』	“ 29	明治15～17年 民権運動の衰退と高崎県令の転任
岡山県記録資料叢書14 『岡山県明治前期資料五』	“ 30	明治18～20年 千坂新県政
岡山県記録資料叢書15 『岡山県明治前期資料六』	“ 31	明治21～23年 市制町村制と府県制郡制
岡山県記録資料叢書16 『岡山県明治前期資料七』	“ 32	明治前期資料の補遺

また、私立病院の設立、閑谷齋の再興に見られる教育機関の設立、相次ぐ新聞雑誌等の創刊など、民間社会での豊かな活動も確認できる。

本書は、充実した発展期を迎える岡山県政の流れを再構成するとともに、県内各地で行われた県民の様々な取り組みと県民生活の実態に光を当てることとして、蒐集と編集作業を進めた。

## 二 『岡山県明治前期資料四』の構成と内容

本書の構成は、県治・県会・民権・産業経済・教育文化の五章とした。個々の資料の編集方法は、凡例に示したように昨年度のをほぼ踏襲している。各章の構成は、掲載資料を年月日順に並べ、一・四・五章では小項目を設けてその中を年代順に配置している。資料出典は各章の冒頭部分に一括掲載し、個別資料にはそれを略称で示した。また各資料には章ごとに通し番号を付し、その資料の内容をできるだけ端的なタイトルで示した。資料の年月日は初出

のものを記し、再申や竣工日などがある場合もここでは記していない。なお「山陽新報」からの引用は、その記事内容をタイトル冒頭の日付で示し、掲載の日付を出典部分に付けた。収録した資料の総数が長短合わせて四七三点にのぼったため、細目次では標題をさらに簡略化した。各章の内容や注目点は次のとおりである。

第一章は「県治」とした。ここでは、備荒儲蓄、貧民救済などのほか、人口、戸籍などの基礎数値や、警察報告等、県政や郡区町村の実態に迫れる資料を蒐集したほか、叢書12に引き続き、明治十六年六月発行の「岡山県職員録」を翻刻収録した。全体として当時の県政の体制を明らかにし、高崎県令のもとで起こった諸事件を振り返る内容としている。そうして、明治十七年十二月、豪腕と呼ばれた高崎五六は、満九年の県令職に終止符を打ち、参事院議官として栄転する。

なお、当時の県民事情を知る資料として「丸持鏡」（長者番付）がある。岡山区のものは、『世相おかやま 昭和

戦前明治大正編』（山陽新聞社）等に収録があり、よく知られているが、所蔵資料から「上道郡丸持鏡」を翻刻した。

また、明治十七年八月には県南沿岸部を中心に各地を大海嘯が襲い、六五五人もの死者・行方不明を出したが、これに関連する資料を小項目で採り上げた。当館所蔵『明治十七年海嘯関係書類』のほか、玉野市教育委員会所蔵の旧村役場資料などから被害状況を伝える資料を翻刻した。

山陽新報に定期的に掲載される「郡村景況」も収録した。県内各地の現状が伝えられ興味深いのが、十六年からは掲載頻度が低くなっている。

第二章では明治十五〜十七年の「県会」の概要を収録した。明治十二年の県会開設以来、県会と県令の関係は基本的に対立にあったが、郡区長の公撰を内務卿へ建議することを決議した程度で、この期間大きな問題は起こっていない。ここでは、国清寺と後楽園を議場として明治十五〜十七年の間に開かれた通常会三回、臨時会六回の計九回の開会当初の議員を一覧にまとめた。各県会の議案、審議結果

等は「県会史」に載っているため省略したが、山陽新報掲載記事など、公的記録によらない県民視点での記事を収録するよう努めた。

第三章は「民権」を標題とした。明治十三年の国会開設請願運動に高揚していった岡山県の自由民権運動は、まもなく転機を迎える。山陽自由党は、明治十五年二月、板垣退助を総理として結成された自由党の地方本部となる。この頃から地方本部内に分裂が起こり、岡山県の民権運動は徐々に停滞していくが、明治十五年には、全国でもはじめての女性の自発的結社である岡山女子懇親会が設立され、女性民権家の活動が始められる。一方で、明治十三年一月の国会請願により体面を失墜されたことに端を発する高崎県令の弾圧は、政談演説の臨検はもとより、教育現場での政談活動禁止などにも及ぶ。

この時期出版関係への弾圧も強められるが、これについては、第五章に關係記事を収録する。

第四章は「産業経済」をテーマとした。引き続き、産業

の近代化のため、官民挙げて様々な分野で新たな事業の導入が図られる。玉島、児島下村、岡山花畑などでの綿糸紡績所の設立稼働が始まった。

士族授産事業は、明治十七年を頂点とするデフレーションのあおりを受け、後に挫折することになるが、政府等から資金の融資を受け、官民挙げて様々な取組をしている様子がうかがえる資料を収録した。また、十六年には十州塩田同盟が結成され、この後の塩業発展の礎を築いていく。干拓前の児島湾を漁場とする牡蠣や伏老はいがいの養殖に関する記事も、当館所蔵資料のほか、岡山大学附属図書館所蔵資料などから収録した。

この時期の土木事業として注目されるのが、宇野円三郎の建言により創始された山林砂防工事の施行である。木材の伐採による山林の荒廃は、土砂の流出による禿山の続出、洪水による被害の多発を引き起こしていたが、これを防止改善すべく提出した宇野の「治水愚見建言」を受けた県令高崎五六は、宇野を県土木掛雇に採用し、砂防事業に当た

らせた。事業は著しい成功をおさめ、以後、岡山県は砂防事業について、全国的に先進県として位置づけられるようになる。関係資料を、当館所蔵「岡山県史野崎家資料」などから収録した。

小項目として、「開墾」、「水論」、「交通通信」を設けた。「開墾」は『叢書12』を継続する内容である。今回新たに設けた「水論」は、この時期を通じて頻出する水不足に関連する山陽新報記事を初め、「野崎家資料」より関連書簡を翻刻収録する。「交通通信」は、今日では社会的資本は公共事業と認識されているのであるが、ここでは各地で民間による線路開発の様子が注目できる。明治十五年の郵便事業の実態は表にまとめた。

最終の第五章は「教育文化」をテーマとした。教育関係では、当時の言論弾圧の一環として、学校を使った集会等の禁止、教員の演説禁止などに加え、生徒の政談演説や学術演説への臨会の禁止にも及んだ。一方で、当時の不景気から、学校経費を削減する状況がみられること対して、教

員俸給を減じるなどのことがないよう、郡区役所等に達している。また、本県においても、夜学、私学等の設立は各地で行われ、教育の重要性が認識されはじめている。十七年八月には、閑谷巒が西穀一らの尽力によって再興された。

ついで出版関係では、この時期に創刊・廃刊した新聞雑誌等を収録した。当時の言論界は、自由民権運動とともに発展していくが、その基本的な姿勢は、政府批判であり、官権批判である。県内においても多くの新聞雑誌が創刊されるが、県はこれらに対し徹底した弾圧を加え、発売禁止や発行停止に処していく。一方、高崎県令が強力に後押しする御用新聞「吉備日々新聞」も十六年三月に向陽社から創刊された。「吉備日々新聞」は県庁から各郡長、戸長、学校長あてに講読を指導する説論が出され、山陽新報をはじめとする自由民権紙を財政的に圧迫しようとした。共に当時東京で公職にあり、後に山陽新報社長となる小松原英太郎と関新吾の、向陽社火災について同社を経営していた草加廉男に宛てた見舞い書翰も興味深い。

文化宗教関係では、逸見東洋（大吉）の彫刻作品、正阿弥勝義のメルボルン大博覧会・京都博覧会における賞牌受賞などの話題のほか、十七年三月に県移管された後楽園の一連の報道記事がある。後に日本三名園の一つに数えられる後楽園に対する当時の庶民の思い入れが見て取れる。日蓮宗不受不施派やキリスト教の活動と人々の対応も注目できる。

衛生関係では、当時医療行為として行われていた浅口沙美や児島田ノ口での海水浴の状況なども収録した。当時の社会風俗をみる上で面白い。

最後に、本書を編纂する際に参考としたおもな参考文献を各章ごとに紹介する。

一 『岡山県郡治誌』上巻（一九三八）

『岡山県水害史』上（一九〇二）

『新修倉敷市史II 史料 近代（上）』（一九九七）

柴田一、太田健一著『岡山県の百年』（一九八六）

『岡山県政史 明治大正昭和前期編』（一九六七）



『岡山市史 政治編』(一九六四)

『山陽新聞七十五年史』(一九五四)

『明治・大正・昭和の郷土史 岡山県』(一九八三)

二 『岡山民権運動史関係史料集』第二集(一九八〇)

『岡山県会史 第一編』(一九〇六)

三 『岡山民権運動史関係史料集』第四・五集

(一九八二・一九八四)

『岡山県史 近代Ⅰ』(一九八五)

『岡山県史 政治・社会』(一九八六)

四 『岡山県史 近代Ⅰ』(一九八五)

小林久磨雄著『宇野円三郎先生』(一九五五)

『明治・大正・昭和の郷土史 岡山県』(一九八三)

五 『岡山県教育史』中卷(一九四二)

『津山市史』第六卷 現代Ⅰ明治時代(一九八〇)

『岡山県史 教育・文化・宗教』(一九八八)

『岡山大学医学部百年史』(一九七二)

『閑谷学校史』(一九七二)